

## 加治屋安彦 雪氷チーム 上席研究員 平成17年度日本雪工学会学術賞を受賞

雪氷チーム

平成18年6月30日に、日本雪工学会の平成18年度総会が仙台市の東北大学で開催されました。

この総会において、当研究所寒地道路研究グループの加治屋安彦雪氷チーム上席研究員に、平成17年度日本雪工学会学術賞が授与されました（写真－1）。

受賞対象となった研究は、研究所報告 No.122の「寒地 ITS の利用者ニーズと有効な導入方策に関する実証的研究」で、インターネット技術を活用した先駆的な雪情報システムの構築と社会実験の実施が高く評価されました。

加治屋安彦上席研究員は、道路雪氷分野において、いち早くインターネット技術の活用に着目し、冬期気象の厳しい峠部道路の安全性・安心感向上のため、画像や路面情報を広く利用者にインターネットで提供する実験を先駆的に実施するとともに、インターネットの次世代記述言語 XML(Extensible Markup Language) を道路情報分野に適用した、“道路用 Web 記述言語 RWML (Road Web Markup Language)” を開発しました。

これは、日本の北海道のみならず、世界中の積雪寒冷地域で活用可能なものであり、PIARC（世界道路協会）や TRB（交通運輸研究会議）、ITS 等の国際会議を通じて海外にも紹介され、革新的な技術として国際的にも注目されました。

これらの一連の研究成果は、実地に活用され道路雪氷問題の解決や軽減に貢献しており、基礎技術の開発とその先駆的応用による社会貢献が、日本雪工学会学術賞にふさわしい業績と評価されました。

なお、今回受賞いたしました、研究所報告 No.122「寒地 ITS の利用者ニーズと有効な導入方策に関する実証的研究」につきましては、当研究所寒地道路研究グループのホームページ (<http://www2.ceri.go.jp/>) に全文を掲載しています。

（文責：松沢 勝）



写真－1 学術賞の授与風景